

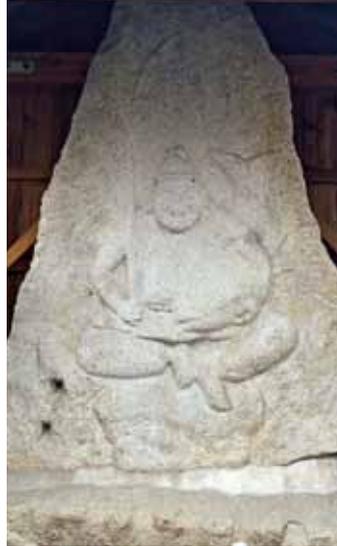
発見! おごおり遺産

No.11 市内の恵比須信仰

今回のテーマは、新年号にふさわしい恵比須信仰です。皆さんがよく知る恵比須さんには、どのような秘密が隠されているのでしょうか。



古飯の恵比須像



松崎上町の恵比須像



立石の恵比須像

私

たちの暮らしはさまざまないのり」とともにありますが、中でも恵比須神は最も身近な神の一つと言えます。

恵比須神は、中世以降に七福神の一つに数えられ、福の神の代表として信仰されてきました。中でも商売の神として有名な恵比須神ですが、実はその他にもさまざまな性格を持っています。

まず、烏帽子をかぶり、タイと釣り竿を担いだ姿からも分かるように、もとは豊漁をもたらす漁業の神として信仰されていました。地方によってはクジラ、サメ、イルカや漂着物のことをエビスと呼び、大事に扱う風習があります。

次に、農業の神としても信仰されてきました。農家では恵比須神を家の福を増す神、または台所を守る神として信仰しています。また、山の神は春に山を下りてきて田の神となり、収穫後、山に帰るとされていますが、この山の神をエビスと呼ぶ地域もあります。

そして、商売の神です。古くは平安時代に、市を開くときに恵比須神をまつたという記録があります。市の神

であったものが、次第に商業守護・商売繁盛の神として信仰され、商人の信仰を集めるようになりました。

小郡市内には、50体以上の恵比須神がまつられています。確認できる市内最古の恵比須像は、古飯の高松凌雲記念碑のそばにある享和元年(1801年)のもので、また、商家の多い松崎宿にも多くの恵比須像が見られ、上町にあるレリーフ状の恵比須像には、文化3年(1806年)の銘があります。江戸時代に在郷町として栄えた小郡町でも、上町・中町・下町・新町それぞれで恵比須像がまつられてきました。

市内では、古くから「座」などのグループでの信仰が中心でしたが、現在はそれほどほとんど見られなくなりました。そんな中、立石公民館の敷地内にある恵比須像は、現在でも地域の人々によってまつりが行われる貴重な例と言えます。

さまざまな性格を持つ恵比須神。信仰を集めるのはもちろん、そのユーモラスな姿は、人々に希望と安らぎを与えてきたのかもしれないね。

問合せ先 文化財課 ☎75・7555

おごおり遺産とは?》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産=市民のたからのこと